

平成30年度

栃木県公立小中学校 事務研究大会



平成30年11月30日（金）栃木県公立小中学校事務研究大会を宇都宮市文化会館小ホールにて開催いたしました。

本研究大会は、大会テーマ「実現しよう！子どもの学びの充実を目指す学校事務を」、サブテーマ「～高めよう学校事務！伸ばそう専門性！地域とともにある学校の協働体制づくり～」のもと、地域の核としての学校、地域とともにある学校の実現に向けて学校の果たすべき役割を確認し、共同実施を含めた学校事務の可能性や事務職員の役割等について考察・熟議を進め、実践・行動につなげていくことを目的としました。



開会式には、栃木県教育委員会をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。

続いて、平成30年度栃木県「教育功労者」並びに「とちぎ教育賞」、「全事研功労者表彰」を受賞された8名の会員の表彰式が行われました。

その後のオリエンテーションでは、栃事研副会長渡邊哲夫より、本大会のねらいについて説明がありました。

地区発表では、河内地区宇都宮支部より「未来につなぐ人材育成と地域学校園経営を支援する学校事務」～Let's keep the light！チームで創る宮っ子の未来～をテーマに、宇都宮市の充実した制度やシステム、整った環境下での地域学校園事務室を核とした学校事務に係る取組状況と、その成果や課題について検証し、地域学校園経営を支援する学校事務のための人材育成に向けた取組について発表されました。宇都宮市で「心豊かでたくましい宮っ子」を育むことをねらいとして中学校を核とした25地区で「小中一貫教育・地域学校園」を導入した経緯や組織体制、



地域学校園事務室制度や協働体制、取り組んでいる人材育成についての説明がありました。また、社会情勢や制度改正などの様々な変化や課題に対応していくために、自分たちは何ができるのか、何をすべきなのかを考え、「地域学校園事務室」の可能性と今後進むべき道を探るため、一人一人が向き合い、心を一つに取り組むことが重要とのお話がありました。



午後の部は、基調講演とシンポジウムの2部構成で全体研究会を行いました。

まず、千葉大学 理事・事務長 松浦晃幸氏より「地域とともにある学校づくりとコミュニティ・スクールの推進について」と題し、学校と地域との連携の必要性について、五つの視点から講演をいただきました。また、法的根拠に基づいて設置されたコミュニティ・スクールの運営の在り方や導入後の効果について示していただきました。

「財務という観点で学校経営をきちんと理解した学校事務職員がコミュニティ・スクールに関わるのは当然ではないか」とお話をいただきました。

続いて松浦氏の講演に基づきシンポジウムを行いました。千葉大学 理事・事務長 松浦晃幸氏、宇都宮市立清原中央小学校 校長 生田敦氏、宇都宮市立旭中学校 事務長 檜山幸子氏、那須町立学びの森小学校 主任 池田安孝氏をシンポジストに迎え、栃事研研究部長 倉澤由佳がコーディネーターを務めました。「学校の協働体制づくりと経営参画について」「学校と地域、学校事務の可能性」の二つを討議の柱に据え、それぞれの立場から様々な話を伺うことができました。松浦氏からは、「役割分担について」や、「地域との連携を図る上で学校事務職員にキーマンになってほしい」というお話がありました。また、生田校長先生からは「経営スタッフの一員としての自覚をもってアプローチしてほしい。想いは伝わる。」とのご意見をいただきました。

最後に、栃事研副会長 渡邊哲夫 が振り返りを行い、今年の研究大会を終了しました。

